

《「環境未来都市」構想提案》

健康寿命延伸都市・松本の創造に向けたプラチナイノベーションによる新需要創造

2011年 5月

松本市、株式会社三菱総合研究所

特区提案の概要

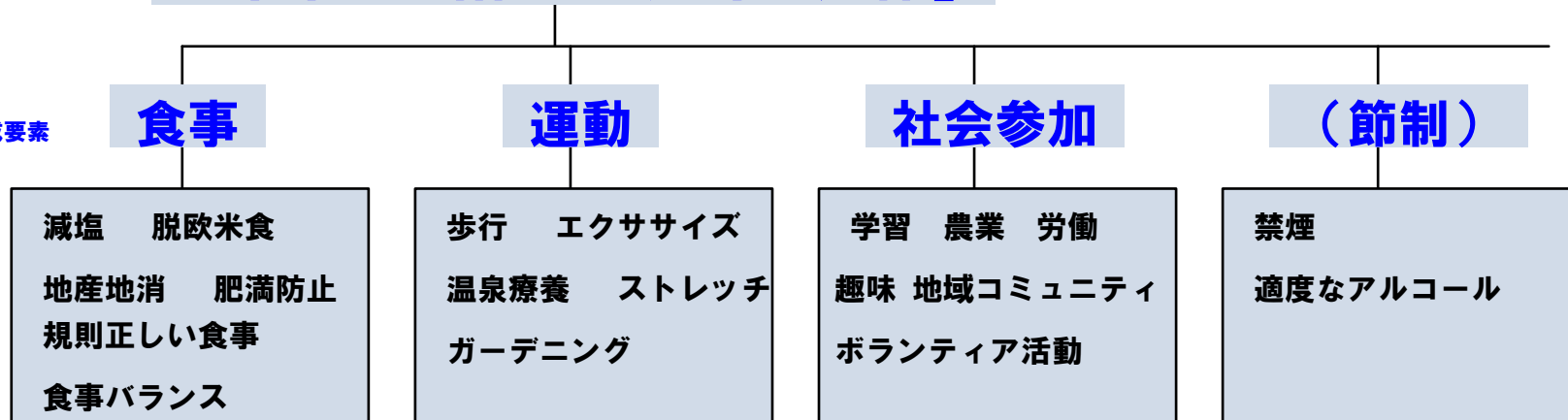
- 松本市では、現在、『「健康寿命延伸都市・松本」の創造』を基本戦略としてさまざまな政策を実施している。これは超少子高齢型人口減少時代において、地域社会が持続していくための総合的な取り組みであり、市民を取り巻くあらゆる環境を見直し、身体的・精神的・社会的な健康水準を高めることを目的にしている。松本市は、他の多くの地方都市と同様すでに人口減少・少子化・超高齢化社会に突入しており、このままなんら対策を打たずに座していれば地域経済は縮小する一方である。また、松本は製造業の集積地でもあるが、国内外需要の低迷やアジアなど新興国の台頭により、大変厳しい状況に置かれている。つまり、従来の社会モデルでは本市の発展が望めない。このことはマクロ的に見ても同様といえる。
- 一方、現在、日本は3つの大きな課題を抱えている。第一は、地球規模の環境問題であり、その次は高齢化の問題である。3つ目は需要不足であり、これがわが国の閉塞感の根源にある。一般に、生活に必要なモノが一通り揃っている先進国では、技術革新による生産性の向上と新興国からの安価な輸入品の増大が相俟って、慢性的な需要不足状態にある。わが国の都市は、中央、地方に限らず極めて深刻な需要不足にあえいでおり、脱却のための社会モデルを求めている。世界でも持続可能な新たな社会モデルを模索しており、「地球環境問題を解決した元気な超高齢社会」が21世紀の社会モデルといえる。三菱総合研究所では、これら2つの課題を高いレベルで解決した社会を「プラチナ社会」と命名することにした。
- この「プラチナ社会」の実現は、まさに『「健康寿命延伸都市・松本」の創造』と将来ビジョンを共有するものである。
- プラチナ社会あるいは「健康寿命延伸都市・松本」を実現することは、健康で快適な社会を創るということであり、寝たきりや介護を要する期間をできるだけ少なくし、豊かに暮らせる時間を増やし、高い生活の質を維持するような社会である。そのためには、医療・健康、環境、教育、インフラ整備・維持管理等の分野で解決すべき課題が膨大にある。これまで、わが国では、こうした分野は産業ではなく、社会コストとしてとらえられてきた。しかし、より快適な社会を創るために使うお金は、コストではなく、投資と考えるべきであり、その投資が持続するには産業として成立するようにすることが必要である。それには、民の活力を活用することはもちろん、規制緩和、制度や技術基準の見直し、リクス資金の調達や公的助成、既得権益者との調整等、官の役割も重要である。これらの取り組みにより新たな需要や産業を創造することを「プラチナイノベーション」と呼び、環境未来都市としてその実現を図るものである。

松本市が目指す「健康寿命延伸都市」の基本コンセプト

- ①要介護・寝たきりの人が少ない
- ②孤立した市民が少ない
- ③活動的な生活を送る人の割合が高い

松本市が目指す「健康寿命延伸」

健康の構成要素



健康を実現する制度・仕組み（ソフト）

生活ポイント 食の改善運動	ITシステム	IT-PHRシステム ヘルスコンチェルジェ	シニアスクール 観光農園制度	コミュニティ活動 サークル活動
------------------	--------	--------------------------	-------------------	--------------------

健康を実現するインフラ

生活指導機関	IT環境 温泉	生活支援ロボット エクササイズ場	学習機関	コミュニティ広場 公民館	施設
プラチナモビリティ		安全安心ネットワーク			インフラ
コンパクトシティ		土地利用（農園、公園、運動場、・・・）			街

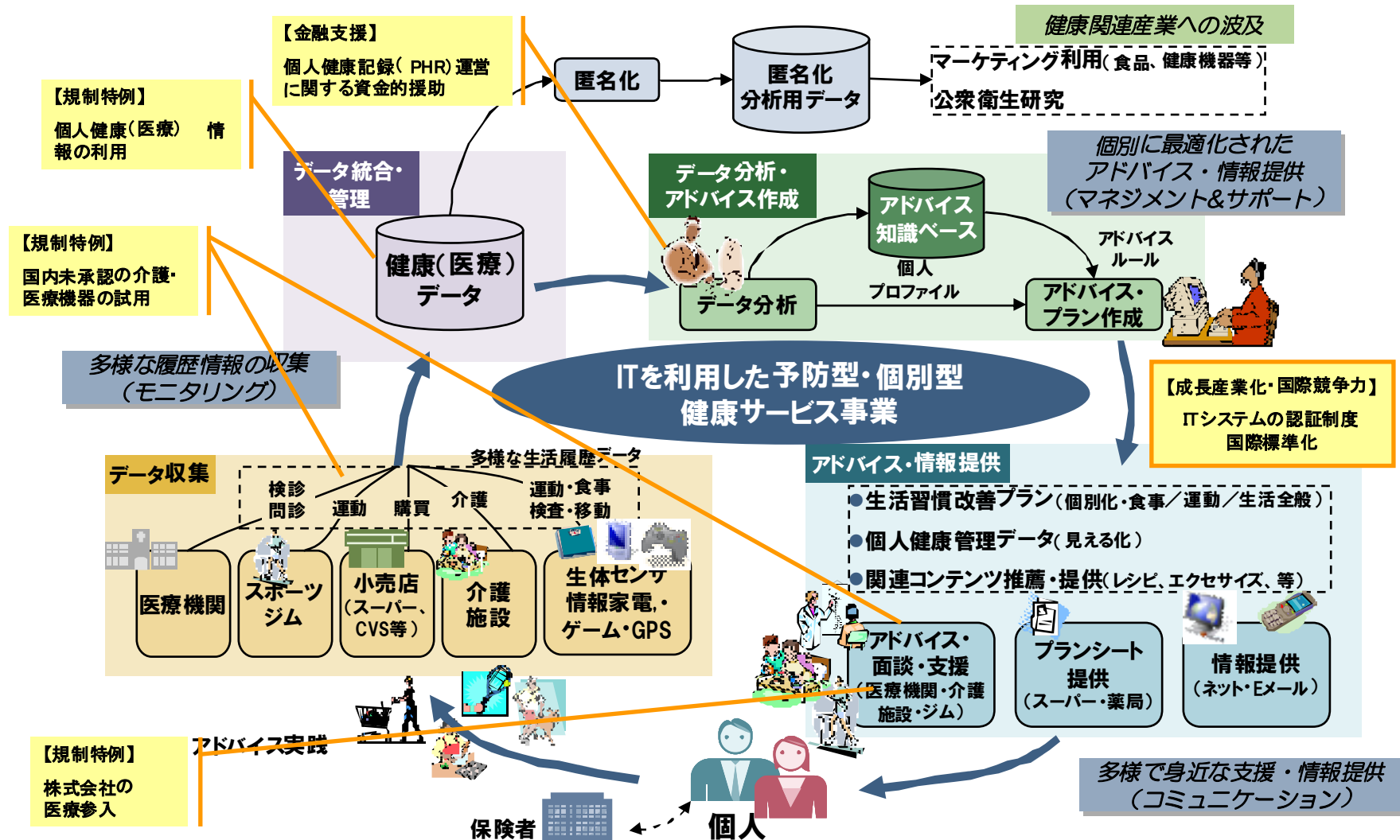
環境未来都市提案における事業

環境未来都市において手がける事業

ITを利用した予防型・個別型健康サービス事業	履歴を活用した個別化・マネジメントサービスにより食事・運動を中心に生活全般をサポートし予防医療につなげる。多様な履歴情報を収集し（モニタリング）、個別に最適化しアドバイス・情報提供を行う（マネジメント&サポート）事業を行う。
生活支援型ロボットの実用化事業	生活支援型のロボットを活用することにより、介護等の負担を軽減し、高齢者の自律を促す。なお、ここで生活支援型ロボットとは、ヒューマノイド型のロボットではなく、歩行訓練を支援する機器や介護の補助をする機械などである。これにより、要介護者そのものの削減や介護者の負担を軽減することを狙っている。
プラチナモビリティ（高齢者用パーソナルモビリティ）事業	アクティブな高齢社会を実現するための交通システムを確立する。高齢者の近距離生活圏で「自動車」と「車いす」の間のモビリティシステムを開発する。高齢者が活動的になることで、消費の活発化、医療費・介護費の削減、行政コストの削減、生活の質の改善が期待される。
自然環境などの資源を活かした療養・介護事業	高原などの自然環境を活かしたリゾート資源と組み合わせた滞在型の療養・介護事業を展開する。この延長線上に、医療ツーリズムを位置づける。療養・介護事業と地域の活性化を結びつけた事業展開を図る。
人と情報の安全・安心ネットワーク事業	高齢者の安全を社会全体で支えるという思想のもとに、生活安全情報を共有・活用するシステムを構築し、高齢者との安心・安全ネットワーク化を事業として推進する。
アグリ・フード事業	我が国の食と農に関するリソースを有機的に連携・集積した機能の構築及び活用により、日本食の栄養バランスや、季節の食材を取り入れた豊かな食のイメージに合致した日本型食生活を「都市型生活者」や「核家族化した高齢者」のライフスタイルの中でも取り入れやすいよう商品開発、サービス展開を行うことにより、持続可能で豊かな食生活を国内市場で活性化する。
大学連携型プラチナコミュニティ事業	大学をシニアを含めた地域住民の生涯教育の場とするだけでなく、海外からの観光客が滞在し、日本の文化・文学・伝統と最先端の産業技術が学べる場として、環境・健康・観光・教育のプラチナ4K産業を創造する。

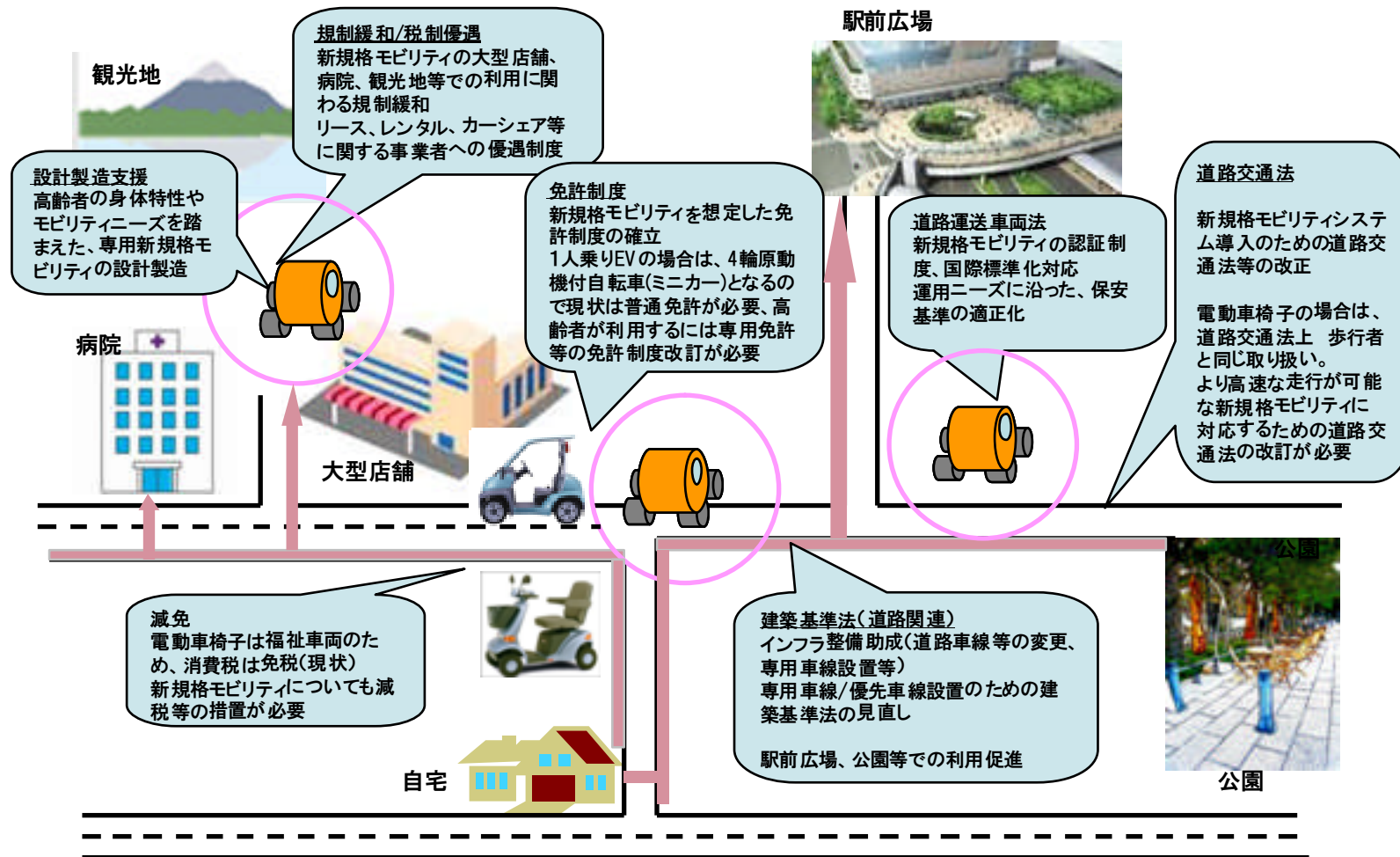
環境未来都市提案における事業の概要

ITを利用した予防型・個別型健康サービス事業



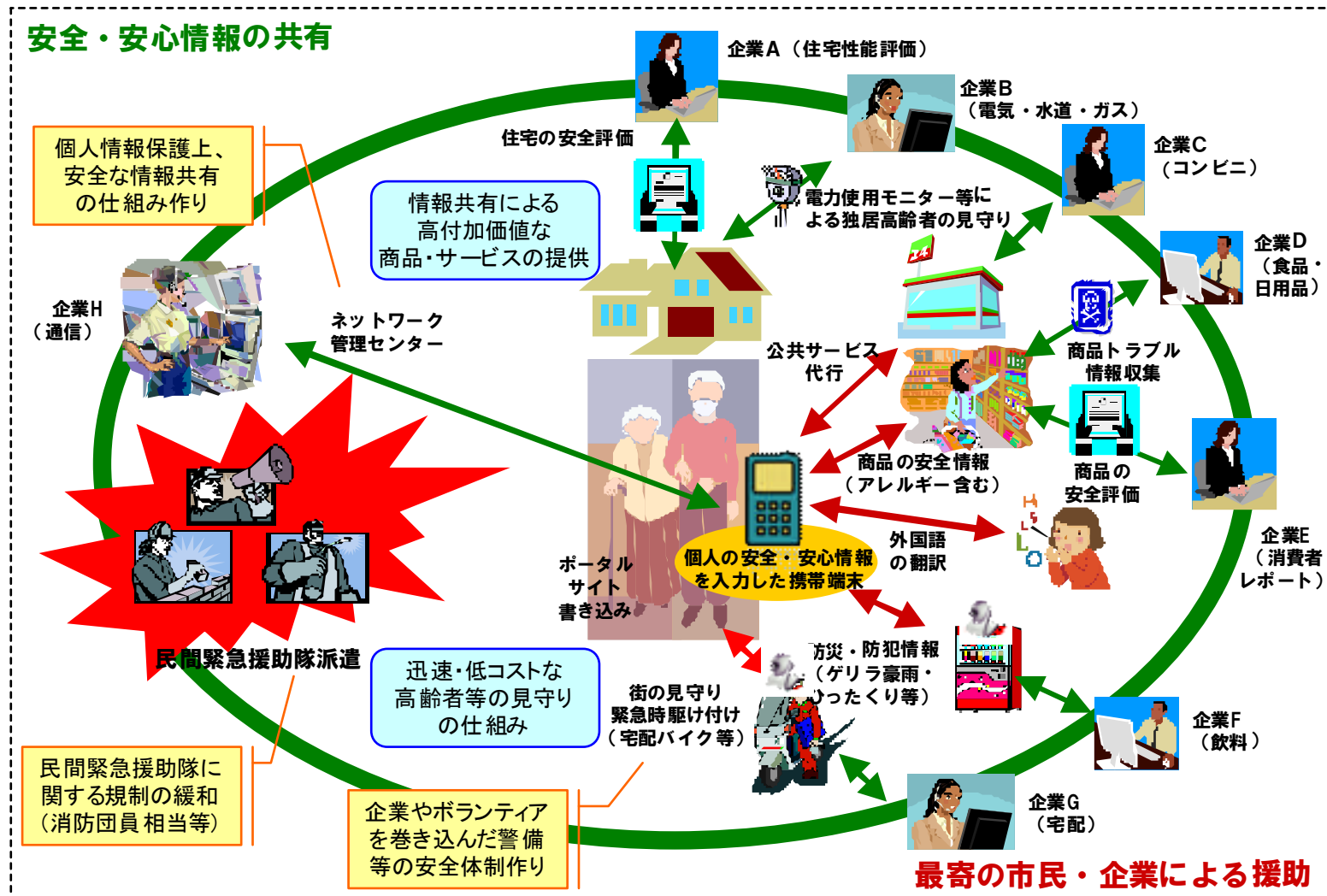
環境未来都市提案における事業の概要

プラチナモビリティ（高齢者用パーソナルモビリティ）事業



環境未来都市提案における事業の概要

人と情報の安全・安心ネットワーク事業



環境未来都市提案における事業の概要

アグリ・フード事業（1/2）

食と農のイノベーションを創出するアグリ・フード・ベース

アグリ・フード・ベースにより解決する課題

1 持続可能な生産・供給基盤の確立

少子高齢化等に伴う生産基盤の弱体化が課題となっており、食と農の高度化（企業の経営、フードSCM、生産省力化・高度化、高付加価値化など）により**地域に持続可能な生産・供給基盤を確立することが重要である。**

2 多様化する食・農ニーズへの対応

ライフスタイルや価値観の多様化に応じて、食と農へのニーズも安全・安心、機能性、地域性、環境、農業・農村や地域社会との関わり方などが多様化している。

3 環境保全型農業へのシフト

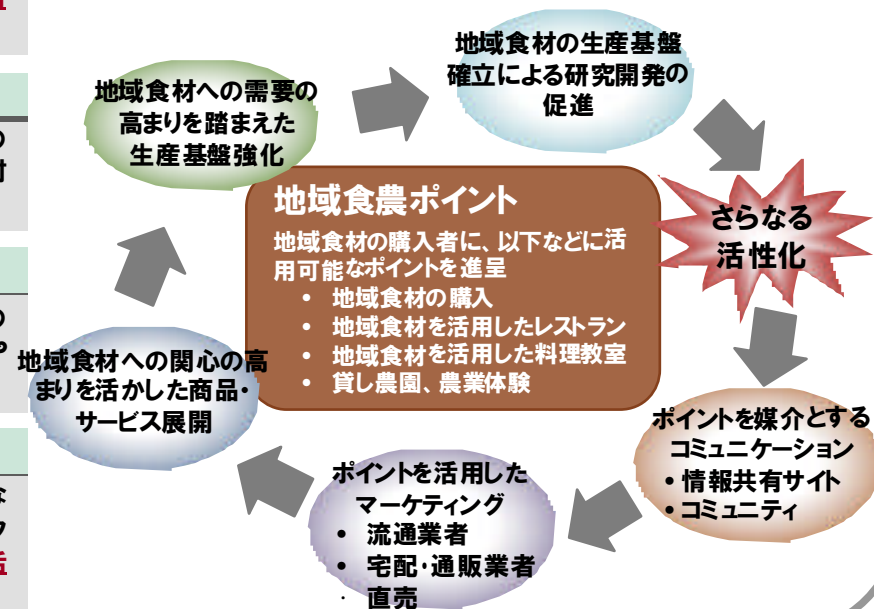
食・農分野においても温暖化対策、有機農業推進などの自然環境や生物多様性への配慮、食品廃棄物の削減や再利用など、環境負荷削減が重要である。

4 新たな食・農ビジネスの創出・活性化

ニューツーリズムやエコ＆アグロスタイルなどの新たなニーズに対応する新産業の創出や、ブランド、技術、ノウハウといった**個別の食農シーズを結集し、地域産業を活性化させ、ひいては海外展開することが重要である。**

国際戦略総合特区による取り組み提案

「**地域食農ポイント**」活用による
地域の食農シーズ結集・産業創造
(地域版アグリ・フード・ベース)

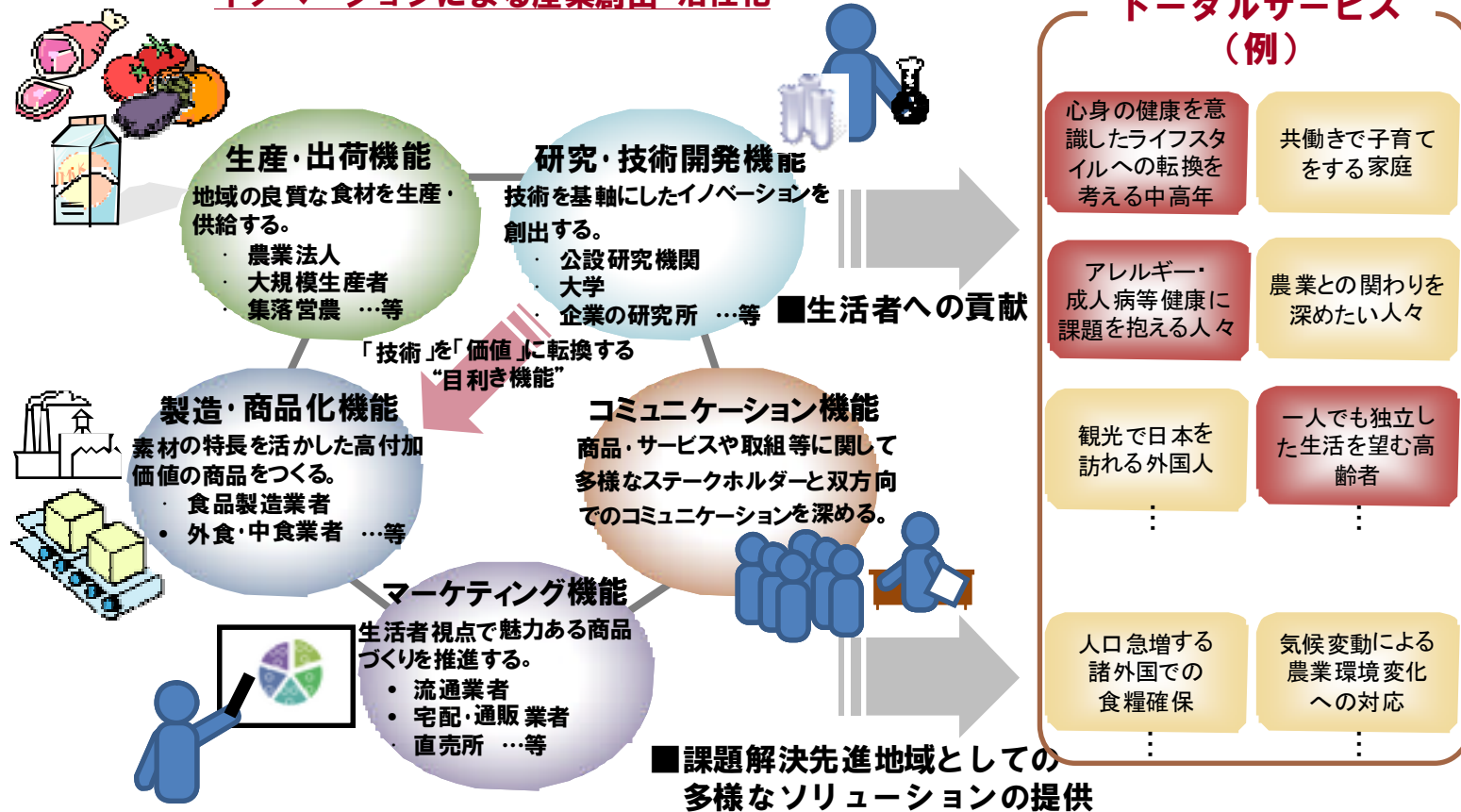


環境未来都市提案における事業の概要

アグリ・フード事業 (2/2)

【アグリ・フード・ベース】

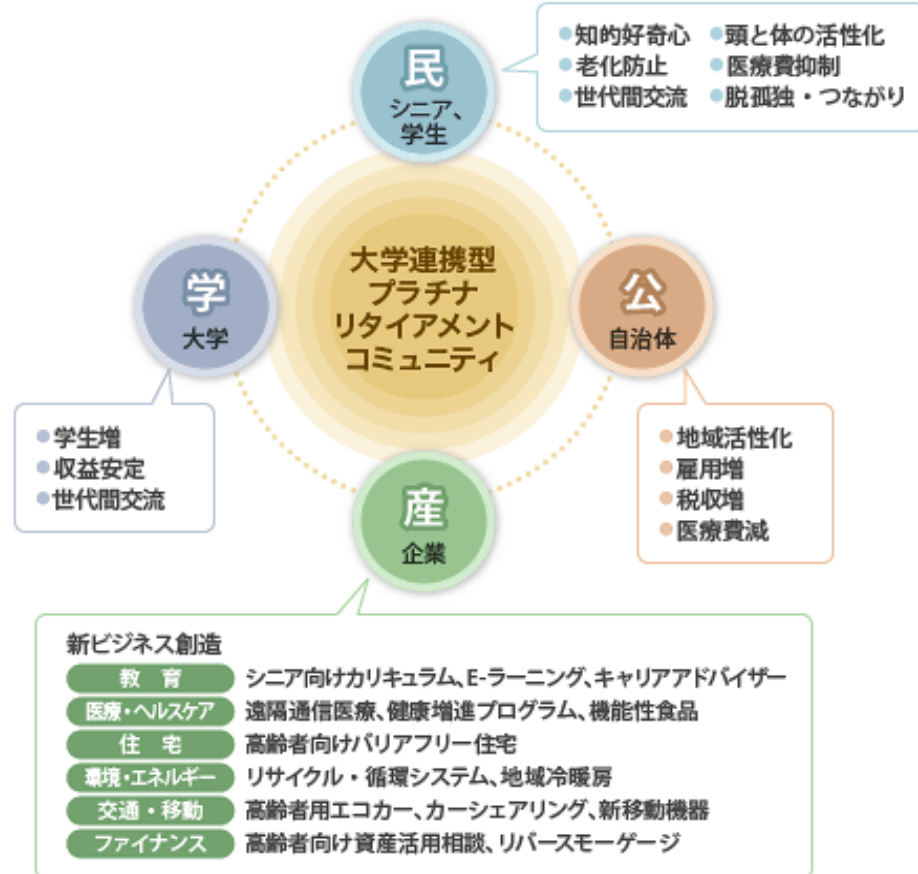
我が国の食と農に関するリソースを
有機的に連携・集積した機能を構築。
イノベーションによる産業創出・活性化



環境未来都市提案における事業の概要

大学連携型プラチナコミュニティ事業

大学連携型リタイアメント・コミュニティ
～民・学・公・産 四者一両得～



資料：三菱総合研究所

過去の反省

- 大型開発のファイナンスリスク
- 老人だけの街のイメージリスク
- 快適さだけを求めるライフスタイル

今後の方向性

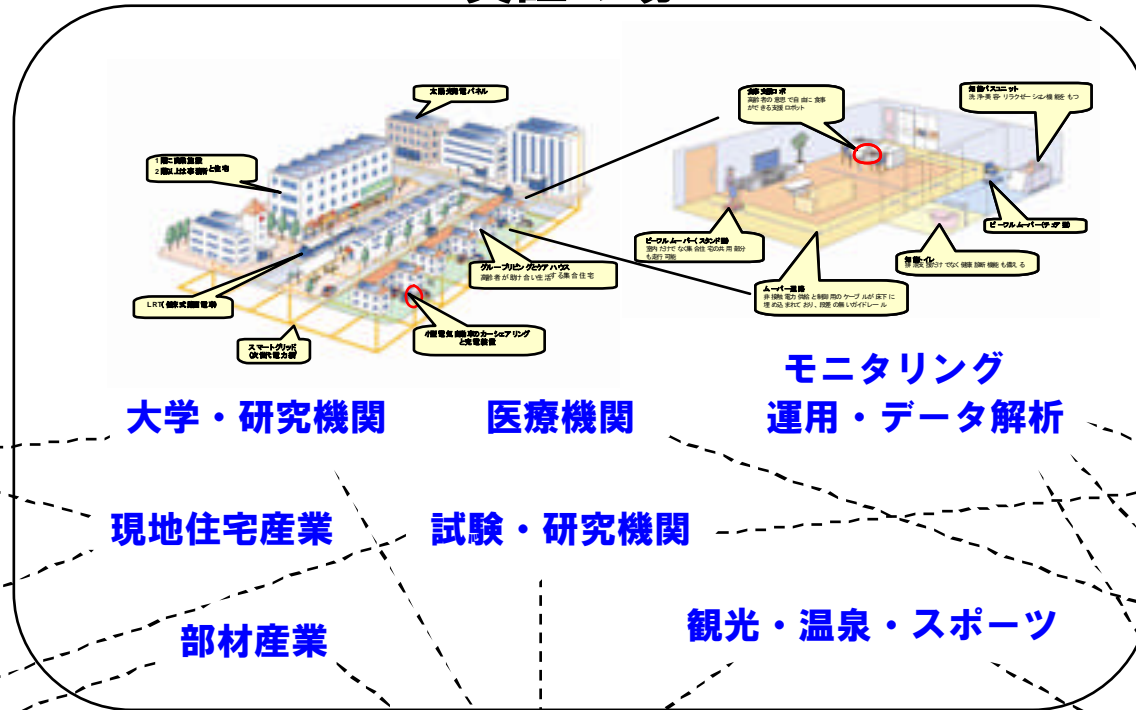
- 小規模・中規模の地に足の着いた開発
- 世代間交流の場
- 子供や孫が来たくなる魅力ある街
- 知的好奇心の充足
- 地域社会への参画や講師などで、自身の存在意義の実感

事業と関連する産業

関連産業	都市再開発・住宅		交通		エネルギー				インフラ維持管理		健康・医療（製造）			食・農			教育・訓練			サービス産業						インフラ輸出					
	53万人		100万人		50万人				8万人		70万人			50万人			40万人			360万人						8万人					
事業名	都市基盤整備	プラチナハウス	路面電車	電気自動車	カーシェア	スマートグリッド	太陽光発電	燃料電池	風力発電	原子力	ITによるモニタリング	修繕の新工法	ロボット化	ITによる予防医療	医療のロボット化	IT・ネットワーク化	植物工場	高級食材・養殖	機能性食品	社会人再教育	職業訓練	初中社会人教員	観光	外国人観光客向けサービス	コンテンツ	文化	医療・介護	健康支援	コンシェルジュ機能	新幹線・鉄道事業	水事の海外輸出
ITを利用した予防型・個別サービス事業														○											○		○	○	○		
生活支援型ロボットの実用化															○	○											○	○	○		
プラチナモビリティ（高齢者用パーソナルモビリティ）事業	○		○	○	○	○		○																							
自然環境などの資源を活かした療養・介護事業	○													○	○	○							○	○			○	○	○		
人と情報の安全・安心ネットワーク事業	○										○	○	○																		
アグリ・フード事業																	○	○	○												
大学連携型プラチナコミュニティ事業																				○	○	○							○		

環境未来都市における実証実験の全体像

実証の場



産業集積 1

- 住宅関連産業
- 都市整備基盤
- エネルギー産業

大学・研究機関

医療機関

モニタリング
運用・データ解析

現地住宅産業

試験・研究機関

部材産業

観光・温泉・スポーツ

ロボット産業

モビリティ産業

産業集積 3

- IT/ネットワーク産業
- データセンター
- コンテンツ産業

産業集積 2

環境未来都市で期待される効果

期待される雇用・経済効果

分野	雇用(万人)	GDP(兆円)	主な内容
都市再開発・住宅	53	3.2	都市基盤整備、エコハウス・プラチナハウス
交通	100	6.0	LRT、カーシェア、EV・PHV、カーロボティックス
エネルギー	50	3.3	スマートグリッド、太陽光発電、燃料電池、風力発電、原子力
水・鉄道輸出	6	0.4	新幹線・水事業の海外輸出
インフラ維持管理	8	0.4	ITによるモニタリング、修繕の新工法、ロボット化
健康医療産業(製造)	70	4.0	ITによる予防医療、医療のロボット化・IT化
食・農	50	3.0	植物工場、高級食材、養殖、グルメ、機能性食品
教育・訓練	40	2.1	社会人再教育、職業訓練、初中等社会人教員
社会参加	200		高齢者の社会参加、健康増進
サービス産業	360	28.0	観光(外国人観光客)、コンテンツ、POP文化、医療・看護・介護、コンシェルジェ
小計	937	50.4	

(注) 上表はプラチナ社会全体の効果、赤塗り：本プロジェクトの直接効果、黄色塗り：一部効果が含まれる